

東久留米市立久留米中学校 第3学年

教科	学力に関する各調査に基づく生徒の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)	次年度に向けた 自己評価 (A・B・C)
国語	<p>・文法事項や古典に対して苦手意識をもっている生徒の割合が非常に高い。定期考査においても文法事項や古典の問題の正答率が50%に到達していない。また、自分の考えを言葉にして、問題に対して正確に答えることに課題の見られる生徒も半数以上いる。</p>	<p>・文法事項や古典の学習の際には、習熟度別の学習プリントを用意し、それぞれに適した学習を行う。また、それによる習熟度を定期テストで確認する。その際、上記の分野の正答率を60%にすることを旨とする。 ・自分の考えを言葉にすることに関しては、作文を書く学習や記述式の問題に多く取り組ませることで改善させていく。定期テストの作文の問題において、80%以上の点数を目標とする。</p>	
数学	<p>・数学に対する興味関心は、他の教科の平均と比較しても高いが、結果に結びついていない。思考・判断・表現の観点では正答率が27.8%であり、特に説明問題に対する苦手意識が強く課題である。しかし、学習したばかりの内容に関しては、正答率が平均を超えており、理解はしているが、長期記憶として定着していない。</p>	<p>・日々の学習の中で、思考・判断・表現を問う内容の問題を載せたプリントを作成し、演習量を増やしていく。長期記憶として残るように、復習内容のプリントを定期的実施し、長期記憶となるようにする。定期考査に向けての学習意欲は高いため、早めに範囲を提示し、日々取り組んでいるプリントから出題した問題で、50%以上の正答率を目標とする。</p>	
(外国語)	<p>・英文を読み取る力に課題が見られる。長文読解の問題で正答率50%を超える生徒が、全体のたった30%程度である。語彙力以外に必要な、内容を予測しながら読む、代名詞が指す内容を考えながら読む、主語動詞を明確にして読む、など、読解の際に必要な力が身に付いてないことが考えられる。</p>	<p>・日頃の授業では教科書の題材を用いて、左記の力を身に付けるための発問を載せたプリントを作成する。英文を読む前に、必ず読み取りのポイントを提示する。繰り返し演習を行った後、初見の英文を示し、力の定着度合いを確認する。同等の語数の英文の問題で50%以上の生徒が、正答率50%を超えるようにする。</p>	
理科	<p>・理科に関心をもつ生徒は授業アンケートで9割を超えているが、学習に意欲的に取り組む生徒は50%程度である。事前に提示した化学式を覚えてくる小テストでも正答率が50%を下回る。小数点の計算等、公式の利用をする上で必要な計算力に課題があるとみられ、小学5年生の問題が解けない生徒が約半数いる。また、生徒実験の経験が不足している。</p>	<p>基礎学力の定着のため、週に1回程度小テストを行い家庭学習を促す。小学校の計算プリントを使い、計算力を向上させる。また、日常の授業規律を再確認するとともに、授業での核となるリーダーを育て、第3学年教科書に掲載されている実験の80%を行い、見通しをもって観察、実験を行う力を向上させる。</p>	
社会	<p>・授業やプリント等の課題への取り組み状況は良好である。基本的な社会的事象に対する知識・理解が十分ではなく、定期考査における正答率も50%前後である。また、複数の社会的事象を関連付けて考察することが苦手な生徒が多い。</p>	<p>・基本的な知識・理解を定着させるために、家庭学習におけるワークへの取り組み方の指導の徹底を図り、定期考査における知識・理解・技能の正答率60%以上を旨とする。また、授業プリントの課題として資料の読み取りや考察に取り組みせたい。</p>	

